

# 西知多医療厚生組合 新病院建設だより (第10回)



## 災害に強い病院づくり

### 事業継続計画

● **電気**  
異なる2系統からの電気引き込みを行い、供給ラインを二重化します。また、自家発電機や無停電電源装置を設置し、電力供給の途絶を防ぎます。

● **熱源**  
空調や給湯を行うための熱源は、通常時はガスを使用し、非常時は備蓄油を使用します。電力供給源となる発電機などのエネルギー燃料を備蓄しています。公共インフラ断絶時においては、医療機能の継続に重要な装置を優先的に稼働させ、効率的なエネルギー利用を実現し、1週間程度機能維持をすることが可能です。

● **食料や飲用水などの備蓄**  
食料や飲用水については、3日分程度を備蓄します。また、トイレなどで使用をする雑用水についても3日分程度を備蓄します。

● **衛星回線の整備**  
災害により電話回線やネットワークが断絶した場合でも外部から情報を入手できるように、衛星電話の導入と衛星回線を活用したインターネットの利用環境を整備します。

● **ヘリポートの整備**  
屋上にヘリポートを設け、救護物資の安全な受け入れを可能にし、迅速な病院機能の回復を支えます。

### 多数負傷者発生時の受入対応

トリアージ(※2)を行うスペースを立体駐車場やメイン玄関前に確保し、大規模災害発生時に多人数の負傷者を受け入れることが可能になります。

### 災害時のシステム障害対策

医療提供を支える医療情報システムは、災害による業務停止を防ぐために何重もの対策を行なっています。

● **通信回線の維持**  
サーバ、ネットワークは二重化し、片方が故障しても業務に影響を

与えない構成となっています。さらに、二重化したサーバが両方停止してもデータの参照ができるように参照用サーバを構築します。



西知多医療厚生組合 管理者  
東海市長 鈴木淳雄

南海トラフ巨大地震などの自然災害に備えた安心・安全な地域社会の再生など、新しい視点で質の高い取り組みが求められています。そのためにも公立西知多総合病院は東海市・知多市の災害拠点としての役割を果たすため、大規模災害時にも病院としての機能が継続できるよう、安全性の高い建物を建築し、災害時における初期救急医療体制の充実などを進めていきます。また、患者の広域搬送や応急用資器材の貸し出し、医療救護チームの派遣なども検討し、今後も新病院事業に尽力してまいります。



西知多医療厚生組合 副管理者  
知多市長 宮島壽男

昨年10月より知多市政をお預かりし、同月組合副管理者に就任いたしました。皆さまのおかげをもちまして、公立西知多総合病院の建設工事も順調に進んでおります。この新病院は、災害対策として、免震構造の採用などさまざまな医療機能を継続できる体制を整えています。また、地域の医療機関や市民の皆さまとも密接な連携と情報の共有を図り、皆さまの健康と命を守る地域の拠点病院となるべく、全力で新病院事業に取り組んでまいりますので、今後ともご支援とご協力をお願いいたします。

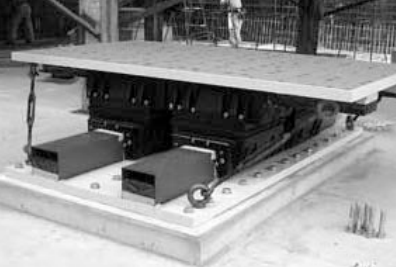
### 公立西知多総合病院の機能 災害対策編

現在建設中の西知多総合病院は、地域の災害拠点としての役割を果たすため、さまざまな災害対策を備えています。

#### 免震構造の採用

昨年12月に免震装置の設置工事を完了しました。この免震構造(※1)が大規模震災に対して病院機能を維持していくための核となる機能となります。

5種類90基の免震装置を配置することによって、地震の揺れを吸収し、建物に伝わる振動を低減します。この免震構造が機能することで、医療機器や家具の転倒、薬品の損傷などを最小限に抑え、災害時の病院機能を維持します。



▲直動転がり支承交差型免震装置

#### 用語説明

- ※1 免震構造  
免震構造は、建物と地面の間に右の写真のような免震装置を挟みこむことにより、地震による揺れを吸収し、建物に伝わりにくくすることができます。
- また、免震装置は、地震の揺れで大きく変形しますが、変形しても建物の重さを支えられ構造となっています。
- ※2 トリアージ  
トリアージとは、多数の傷病者が出た場合、容態や緊急度に応じて優先順位を判断して負傷者を分類することです。



▲メイン玄関前 ▲ヘリポート

～ 問い合わせ先 ～

〒476-0003  
東海市荒尾町丸根1番地  
西知多医療厚生組合  
総務部 新病院建設課・経営企画課

● 電話 052-603-2271  
● FAX 052-603-2717  
● ホームページ  
<http://www.nishichita-aichi.or.jp/>